

武庫川女子大学
武庫川女子大学短期大学部

第15号

FDニュース



● 目 次 ●

- [1] わたしと FD
- [2] 平成28年度 新任教員 FD 研修会開催報告「学生がアクティブになる授業」
第1回 教育改革講演会開催報告「新たな時代の大学教育に何が求められているか」
- [3] 第2回 教育改革講演会開催報告「障がいのある学生支援について」
FD 勉強会開催報告「学生が学ぶ喜びを感じる授業とは？」
- [4] 「授業改善のためのFD研究会」の発足と平成29年度の募集について
FD 推進委員会のウェブサイトがリニューアルされます
編集後記

■ わたしと FD

FD 推進委員長 三宅 弘晃

本年度4月より、生活環境学科の北村薫子先生に代わって、FD 推進委員長を拝命しました英語文化学科の三宅と申します。微力ではありますが、武庫川女子大学のFDに力を尽くしてまいり所存ですので、以後よろしくお願ひいたします。

さて私事ではありますが、13年前の新任時代、大学英語文化学科および短大英語コミュニケーション学科（現・英語キャリアコミュニケーション学科）で必修となっていた文法科目において、担当者によって教育内容が大きくばらついていたことに大きな疑問を持ったことをきっかけとし、学科有志に呼びかけて「文法プロジェクト」を立ち上げ、授業内容の統一・改善に取り組みました。数年間のプロジェクトの中で、ムコガワフォートライトキャンパスのネイティブスピーカー教員たちと連携し、結果は *MUKOGAWA English Grammar*（武庫川女子大学出版会）という英文法教科書に結実しました。このプロジェクトの成功を通じ、学科では、必修科目を中心とした基礎教育科目などにおいてコーディネーター制が設けられ、担当者によって教育内容が大きく異なるような体制が確立しました。現在、学科の教員の間では「英語教育を通じてどのような学生を育てたいのか」という“student identity”が喫緊の課題となっていますが、コーディネーター制はこのような「学科が育てたい人物像」を形作るのに役立っています。FDは文字通り「教員の資質を伸ばす活動」であると思われがちですが、わたしはこのような経験を通じて、実は学生の学びに資する活動でもあり、むしろ後者の側面の方がより重要なのではないかという思いを強くしました。

また、学生の学びに資するという意味では、本年度後期から本格導入されたmwu.jpも、「これからの武庫川の学び」への可能性を秘めた強力なツールであると個人的に強く期待をしています。このシステムを使えば、学生のほぼ全員が持っているスマートフォンで利用できるGoogle classroomやオンライン小テストとして利用できるGoogle formを利用して、課題提出や授業内での小テストを比較的簡単に実施することができます。わたし個人も、Google classroomのシステム（図参照）を利用して、各クラスで指導する学生からの質問を常時受け入れ、学生との間が縮まったように感じています。このようなモバイルテクノロジーを利用することで、場所を選ばない主体的な学びが促進されることが大いに期待されます。また、このような授業内外の試みを教員の間で共有することにより、これらの教育ノウハウは武庫川の貴重な財産となることでしょう。

目まぐるしく変化する現代社会において、教育の分野においても立ち止まることなく、変化に先んじて動くことが社会全般で強く期待されています。武庫川女子大学の教育を一步進めるため、みなさんと力を合わせて進んでいきたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。



平成28年度 新任教員 FD 研修会開催報告「学生がアクティブになる授業」

FD 推進委員会主催で、平成28年度新任教員 FD 研修会を開催しました。今年度は、関西大学で FD 分野を専門としている三浦真琴先生を講師にお招きし、「学生がアクティブになる授業」というテーマで講演及びワークショップを行いました。

日時：平成28年7月30日（土）13時30分～16時30分
 場所：附属図書館 ラーニングコモンズ C-604
 内容：「学生がアクティブになる授業」
 詳細：13時30分～13時40分 開会挨拶
 13時40分～14時40分 三浦真琴先生による講演
 「学生がアクティブになる授業」
 14時50分～16時20分 講演に関するワークショップ
 16時20分～16時30分 閉会挨拶
 出席者：32名（FD 推進委員 6 名含む）



<講演会の様子>

研修は前半60分を講演、後半90分をワークショップ形式で実施し、FD 推進委員 6 名を含む32名の先生方に出席していただきました。前半の講演会では、学生の汎用的な能力の育成を図るために効果的なアクティブ・ラーニングの方法について説明いただきました。教員がどう教えるのかではなく、学生の学びを教員がどのように引き出すのかという点がアクティブ・ラーニングを行う際に、最も重要なポイントになるとのことでした。後半のワークショップでは、グループ活動を行う際の、「グルーピング方法」「グループ課題の提供の仕方」「解決させるプロセス」等について、実際に先生方に体験していただきました。また、研修会終了後、参加された先生方にアンケートを実施したところ、「自分が思っていた以上に、学生に知識や技術をおしつけている、教える（引き出す）より知識の強制伝達をしていると感じました。」「アクティブラーニング形式の授業を実施するヒントを手にすることができました。早速後期の授業に活かしていきます。」など参加して良かったというコメントを多数いただきました。このアンケート結果は、今後の新任教員研修プログラム等の参考にさせていただきます。



<ワークショップの様子>

第1回 教育改革講演会開催報告 「新たな時代の大学教育に何が求められているか」

8月19日（金）に公江記念講堂において全教員を対象に、第1回教育改革講演会が開催されました。講師として、筑波大学 大学執行役員大学研究センター長・教授（元文部科学省 高等教育局長）徳永保先生をお招きし、現在、本学においても見直しを進めている3つのポリシーの一体的策定に至るまでの大学教育に関する質保証政策及び関係施策を3つのフェーズに分け、説明いただきました。

徳永先生からは、大学教育に関して大学で取り組まれていることの多くは2008年に中教審より答申された「学士課程教育の構築に向けて（学士課程答申）」において既に提言されており、3つのポリシーについてもその時点から大学関係者による主体的な取組みを鼓舞することになった経緯や、2012年に答申された「大学教育の質的転換について」も実質的には「学士課程答申」の内容確認とその成果検証であることの説明がありました。

また、講演を通じて「3つのポリシーとは大学の性格を表すものであり、それぞれの大学が自らの目標を決めなければならない。」「大学の主体的な努力による取組みを公表する必要がある。」とのメッセージをいただきました。

学生の学習成果の質保証を考えるうえでは、修得目標・教育課程・履修プロセス・学位等が一体となった教育プログラムにもとづいた教育を行うことが求められます。本学においても教育改革推進委員会を中心に学位プログラム単位での検証を進めていきます。



第2回 教育改革講演会開催報告「障がいのある学生支援について」

2月1日(水)に公江記念講堂において全教員を対象に、第2回教育改革講演会が開催されました。今回は京都大学 学生総合支援センター助教の村田淳先生をお招きし、「障がいのある学生支援について」をテーマに講演をいただきました。

昨年4月1日より「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」が施行されていますが、本学の現状は、学科ごとに個別で相談し配慮する程度に留まっています。今回の村田先生の講演では今後大学として障がい学生支援の体制整備、安定的な支援の運営、障害者差別解消法への対応、バリアフリー化、理解啓発の促進等に取り組む必要性を再確認すると共に、障がいのある学生支援についての基礎的な情報を全教職員で共有し、理解を深めることのできる良い機会となりました。講演会で得た情報を活用し、本学においても全学的な支援体制を早急に整備できればと考えます。



FD 勉強会開催報告「学生が学ぶ喜びを感じる授業とは？ ～ Teaching から Learning への転換を図るために～」

2月16日(木)に学内の教職員を対象に「学生が学ぶ喜びを感じる授業とは」をテーマにした勉強会を開催しました。毎年本学では全国大学実務教育協会が主催する「能動的学修の教員研修リーダー講座※」に1名参加いただいております。今年度は共通教育部 古野貢先生が参加されました。その研修を踏まえ、古野先生より、ご自身の担当科目である「本を編む」(授業内で創立80周年誌作成、複数の科目担当者)、「博物館実習・同資料論」(資格科目)等の複数の科目で実践された工夫と成果について、発表いただきました。

また、昨年度FD推進委員会では、全学的な取組みとして授業改善の工夫事例を集約した冊子を作成しましたが、今回はその中から、担当する「スポーツ心理学」の授業において予習レポートを活用されたアクティブ・ラーニングを実践されている健康・スポーツ科学部 松本裕史先生に実践事例の紹介をいただきました。当日は教職員合わせて26名が参加し、事例報告をもとに意見交換を行いました。参加者からは、「レポートに意味づけ、学生への指示内容、返却時の教員のスタンスなど大いに参考になりました。」「自分自身が楽しみながら授業をする姿を学生にみせることも重要なことだということがわかりました。」といった意見をいただきました。



FD推進委員会では次年度以降も授業において様々な工夫や新たな試みをされている先生を紹介し、授業改善のための引き出しを増やしていきたいと考えています。今回は参加できなかった教職員の皆様もぜひ次年度ご参加ください。

武庫川女子大学・武庫川女子大学短期大学部FD推進委員会主催 勉強会
学生が学ぶ喜びを感じる授業とは？
～TeachingからLearningへの転換を図るために～

本学において授業改善のための様々な取り組みが行われています。その実践例の一部を紹介し、情報共有することによって他大学の授業改善や大学全体の教育の質の向上に繋げていくための転換会を開催します。大学での授業経験の違い、指導の視点から、ご自身の授業の教育効果を更に高めたいと考えられている方まで積極的にご参加ください。

平成29年
2月16日(木) 16:30-18:00
中央講義館6階 C-604教室 (副講義6階ラーニングコモンズ)
参加希望の方は2月8日(水)までに教育開発支援室へご連絡ください。

司会進行: FD推進委員長 三宅 弘晃

16:35~17:00
非例紹介
学生の主体的な学びを促進するための共通教育科目
における工夫と成果
発表: 古野 貢先生 (共通教育部)

17:10~17:35
事例紹介
「予習レポート」を活用したアクティブ・ラーニング
発表: 松本 裕史先生 (健康・スポーツ科学部)

17:35~18:00
実践例に関する質問、自身の授業改善に関する相談等、
情報交換の時間

勉強会の申し込み、問い合わせ先 教育開発支援室
TEL: 0798-56-9070(内線6410・6411・6412)
e-mail: seds@mukogawa-u.ac.jp

※「能動的学習の教員研修リーダー講座」への参加者募集について

毎年、一般財団法人全国大学実務教育協会主催「能動的学習(アクティブ・ラーニング)の教員研修リーダー講座」への参加者を1名募集しています。学生の理解を高めるためにアクティブ・ラーニングを効果的に活用したいとお考えで、研修講座に関心をお持ちの方は4月14日(金)までに教育開発支援室へお申込みください。詳細はinfo@MUSESで案内しています。(対象は本学の専任・嘱託教員となります。)

「授業改善のためのFD研究会」の発足と平成29年度の募集について

学科の枠を超えた有志が集まり、授業内容や方法、評価などの様々なテーマで研究会活動を行い、成果を学内に還元することで、大学全体として、より効果的なFD活動を展開することを目的とした「授業改善のためのFD研究会」制度が発足し、平成28年度より運用が始まりました。

4月に研究会開設の募集を行った結果、2件の応募があり、FD推進委員会の審議を経て、心理・社会福祉学科の竹中一平先生を代表とする「ICTを活用した授業改善研究会」の開設が8月19日付で学長より承認されました。大学の専門領域における教育へのICT活用は本学の教育改革の重点項目であり、本研究会の活動はそれと合致するものであるとの評価を受けました。

具体的な活動内容や成果については、ウェブサイト等にて随時発信していきます。

ICTを活用した授業改善研究会	
メンバー	竹中一平（代表者・心福）、白井詩沙香（環境）、天野憲樹（情報）
活動支援期間	平成28年10月1日～平成30年3月31日
活動方針目的	ICT技術を活用して授業改善を行うことを目的として、各会員がそれぞれ扱いたいICT技術を決め、それに興味を持つ他の会員を募って研究会を開くことで進める。特定のICT技術に焦点を当てるのではなく、広くICT技術の教育への適用に興味を持つ教員の交流の場として研究会を活用する。
活動計画（応募時点）	①授業におけるスマートフォンアプリによる簡易クリッカーの利用法の模索及び実際の授業での実践。 ②クリッカーの活用に関する講演会の開催。

－平成29年度の募集について－

1. 研究会開設条件

- 「Teaching Tips 授業改善のための工夫・失敗事例」（平成28年1月発行）に掲載されている事例を活用または発展させている活動であること
 - 授業改善に結びつく活動方針・活動内容が提示されていること
 - 既存のFD研究会と研究領域が重ならないこと
 - 2名以上の学内教職員が参加していること
- ※申請者は研究会の代表者とし、本学の専任教職員（嘱託を含む）に限ります。

2. 応募方法

申請者は、info@MUSESまたは武庫川学院教職員コミュニケーションサイトに掲載の「FD研究会開設及び活動支援申請書申請用紙」と「平成29年度補正予算申請書類」に必要事項を記入の上、メールにて教育開発支援室（seds@mukogawa-u.ac.jp）に提出してください。

※メール件名は「【H29FD研究会】所属 氏名」としてください。

3. 募集受付期間

平成29年4月1日（土）～6月3日（土）

※予算面での活動支援を必要としない場合は、随時申請可能です。

詳細はinfo@MUSESまたは武庫川学院教職員コミュニケーションサイトに掲載の「授業改善のためのFD研究会の募集について」をご覧ください。

FD推進委員会のウェブサイトがリニューアルされます

平成29年4月にFD推進委員会のウェブサイトがリニューアルされます。新しいサイトはシンプルで見やすいデザインになっており、新規開設の「授業改善のためのFD研究会」のサイトともリンクしています。学内外のFDに関する最新情報を入手するツールとしてご活用ください。



編集後記

FDニュースの編集作業を終えて、改めて内容を見ると、この一年に行われた、新任教員FD研修会、2回にわたる教育改革講演会、授業改善に関する勉強会、授業改善の為のFD研究会等のさまざまな活動が取り上げられている。今さらながら、FD活動の推進役として活動していただいた皆様に頭が下がる。今私たち大学人に求められている「組織的FD」とは何かを考えたとき、それは組織が先導しお膳立てして行うFDではなく、学生のより良い学びのために今何が必要で何が足りていないかについて、学生と「時間と空間」を共有する私たち教職員が、一人ひとりの立場、それぞれの視点を大切にしながら活動し、組織がそれらの活動を焦点化し血肉化する、グラスルーツ的な日常活動なのではないかと思う。このFDニュースから、本学のFD活動の「芽吹き」を読み取っていただければ幸いです。（FD推進副委員長）

